

2012 年 1 月 27 日/千葉大学総合校舎 A 号館 2 階大会議室

アカデミック・リンク・セミナー(第 7 回)

「これからの授業の話をしよう『自ら学ぶ学生』への教材提供」アンケート結果

当日参加者数：22 名

アンケート提出数： 18 件

千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成することを目的とし、デジタル時代における大学の学習教育環境の改革に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・図書館職員と教員が、資料選定作業で連携している点。
- ・先生が細かく講義を設定していたこと。
- ・実例をふまえてのお話でしたので、非常にわかりやすかったです。
- ・レガシーコンテンツの再生はこれから必要な課題の 1 つであると感じました。
- ・授業資料ナビ、デジタル・コース・パックと著作権の関係については、当然考えられることなのにあまり思い至っておらず視点が広がったように思いました。
- ・(授業) 資料ナビで教員の作業デモが面白く思ったより簡単そう (?)。図書館員と教員の連絡ツールも役立ちそうに見えました。学生との双方向のツールもあれば、アクセスが伸びるのでは。
- ・少し的外れかもしれませんが、本当に先生方と図書館との連携が取れているのだな (取れてないということとはできない) と感じました。
- ・パスファインダーを充実させていくためには、むずかしいことがあるし、実務が膨大に増えそうです。
- ・米国の文系学部授業シラバスではリアルタイムのものはあまり web に掲載されていないという点。
- ・Moodle というシステムをご紹介頂き誠に有難うございました。
- ・学生の学習を支援する上で、こうした取り組みが有効であり、実現できるしくみが必要であることを実感しました。
- ・授業資料ナビシステム開発の経緯と内容が興味深かったです。
- ・データ入力が電子的にできるよう開発されたシステムは使いやすそう (入力が容易) で良いなあと思いました。
- ・デジタルコースパックの仕組みと授業資料ナビの概要がよくわかりました。
- ・著作権のハードル、曖昧さを改めて感じました。
- ・貴学 (リンクセンター) の新たな試みを知ることが出来て良かったです。
- ・(授業)資料ナビの有用性。
- ・Moodle の可能性。
- ・授業資料の著作権についての再確認。
- ・e-learning の問題点を再認識しました。①タブレット端末の流布とメモ可能機能 ②著作権許諾
- ・やはりデジタル化には“著作権処理”という大きな課題があることを再認識しました。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・授業資料ナビを利用している授業と、利用していない授業とでの理解度の差、正規外学習時間との比較なども教えていただければと思いました。(質疑でお伺いできなくて。)

## 2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・パワーポイントの資料がなく、特に最初の発表のものは（目が悪いので）あまりよく読めませんでした。基本概念のところが理解が浅くなり残念です。
- ・それから、技術的・システムの限界的な解決が待たれる話題については費用、人員、の前提もあるのだろうかという推測します。
- ・「能動的学習」がテーマの（一部の）ようでしたが、授業資料ナビのように、コンテンツが指示されるシステムは、逆に受動的な姿勢をつくってしまう可能性があるのではないかと疑問に思いました。
- ・手間が省ける以外の moodle 使用のメリット（著作権処理等がとても複雑なのに、このプロジェクトを進めていかれていくということはその大変さを超えるメリットがあると思うのですが、それは何なのだろうと少し疑問に思いました。）質疑応答によると学生の反応はよいようですが。
- ・紙のシラバスと moodle がごっちゃになってしまいました。
- ・学生の授業外利用のための文献閲覧の為に著作権課題を今後どのように取り組まれていくのか。
- ・教材開発と著作権処理の全国に広がるであろう取り組みのタイムスケジュール（目標）のようなものは、あるのでしょうか？
- ・デジタル・コース・パック作成について、学内（教員）の協力を得るために、どのような活動を行ったか。
- ・公衆送信権などの難しさなど分かりました。
- ・どの位の人数、比率の教員が、この制度に参加されていますか。教員参加数、率の継年変化率はどのように増加していますか。

## 3. 今後もアカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・アカデミック・リンク・センターによる学習支援はどのように計画されていますか。（制度、教員との連携、支援内容、他）
- ・次回予告が秀逸でしたので、まずは次回が楽しみです。
- ・iBooks Author による教材作成の可能性、将来性。
- ・教材のデジタル化の話を続けてほしい。特にポートフォリオなどの有効性などについて。

## 4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・非常に興味深いお話でした。本学でも教材の電子化、教員と図書館の連携を目指しており、モデルとして大変参考になりました。
- ・事前申し込みに不備があったようで、大変失礼いたしました。有益なセミナーをありがとうございました。
- ・資料を学生自ら用意するのは、PC や印刷が学内で自由に無料にできるのならとても良いと思う。
- ・面白いこと、イベント多くうらやましいです。
- ・大変参考になりました。誠に有難うございました。
- ・図書館、教員、学生のトライアングルの連携を積極的に推進している姿勢が素晴らしいと思われます。

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・セミナーの事後学習のために今日の先生方の資料がいただければよかったと思います。
- ・“自由に”ということですので。デジタル化の遅れは学術発展の妨げとなると考えています。教育機関、学術研究機関が何らかの”組織”として、”法改正”を訴えていく、ということはどうでしょう。

5. 次の（１）、（２）について、該当するものに○をつけてください。

- （１） a. 学外から参加（13名） b. 学内からの参加（5名）
- （２） a. 学生（2名） b. 教員（3名） c. 大学職員（図書館職員を除く）（1名） d. 図書館職員（6名）  
e. 出版関係（0名） f. その他（6名）

6. セミナーを何で知りましたか？

- a. Web（アカデミック・リンク・センター）（1名） b. Web（図書館）（1名） c. Web（千葉大学）（0名）  
d. 一斉配信メール（5名） e. ポスター（0名） f. センターからのメール（10名） g. Facebook・Twitter  
（0名） h. その他（知人の紹介）（1名）

千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。（既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です）

お名前：（ ）

ご所属：（ ）

電子メールアドレス： ☐ 申込時に申請したもの ☐ それ以外（ ）

ご協力ありがとうございました。

※6名が新規に継続的な情報提供を希望